

令和6年度公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価結果について

横浜市公立大学法人評価委員会（以下「評価委員会」という。）が、地方独立行政法人法に基づき、令和6年度における公立大学法人横浜市立大学の業務の実績に関する評価を実施し、設立団体の長である市長に対して評価結果を報告しましたので、その概要を報告します。

1 総評

第4期中期計画の2年目となる令和6年度は、教育、研究、医療、法人経営等の各分野で、計画に基づく具体的な取組が着実に進展していると認められる。特に、「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（J-PEAKS）等の国の主要事業に採択されたことは、研究力強化に向けた全学的な努力の成果と高く評価する。一方、6年度決算については、経常損益が前年度に続き赤字となっており、収支改善が喫緊の課題であることから、幅広い視点からの戦略的な施策が求められる。

2 項目別評価（B以外の評価を抜粋）

S：計画を大きく上回って実施している、または特筆すべき状況にある A：計画を上回って実施している
B：計画どおり実施している C：計画を十分に実施していない D：重大な改善事項がある

※（ ）内は法人の自己評価（横断的項目を除く）

6年度計画の主な取組	評価委員会の主な意見 (○：特に評価できる点 ●：改善すべき点)	評価※
I 教育		
2 5学部6研究科における教育の充実		
<ul style="list-style-type: none"> 文部科学省「大学・高専機能強化支援事業」による博士前期課程の入学定員増に向けた教育環境整備の実施 社会の変化に対応する知識や技能、幅広い教養と高い専門的能力、グローバルな視点を養う教育プログラムの提供 学生満足度（カリキュラム評価関連）87%/年 「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING事業）※の推進 	<p>○学生の確保が難しくなってくる時代であり、<u>理系人材の不足も懸念される中、社会の要請に応え、理学部（令和8年度）、データサイエンス学部（令和9年度）及び研究科（令和7年度）の定員増に向けた取組を計画的に進めており、教育体制の整備が着実に進行していることを高く評価する。</u></p> <p>○<u>学修者に寄り添った教育改革が進展しており、大学院博士後期課程において、「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING事業）などを通じた支援体制が充実しており、学生満足度の向上【目標87%に対して、89%】にも寄与していることを評価する。</u></p>	A (A)

※「次世代研究者挑戦的研究プログラム」（SPRING事業）： 文部科学省と科学技術振興機構による博士後期課程の学生に対する支援制度（SPRING：Support for Pioneering Research Initiated by the Next Generation）														
Ⅱ 研究														
2. オープンイノベーションの推進														
・産学官共創オープンイノベーション研究施設の整備 ・文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（J-PEAKS）※：申請初年度における指摘事項の改善の推進 ※「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業」（J-PEAKS）： 文部科学省と日本学術振興会による大学支援プログラム （令和6年度採択大学 13大学、令和5年度採択大学 12大学） ・ベンチャー創出累計数：11 件/累計（進捗率 73.3%）	○オープンイノベーション研究施設が竣工し、実質的な活動が可能になること、さらに「 <u>地域中核・特色ある研究大学強化促進事業</u> 」（J-PEAKS）の採択に至ったことを高く評価する。 ○ベンチャー創出累計数が指標を上回り【目標11件に対して、14件（進捗率 93.3%）】、 <u>研究成果の社会実装が進んでいる。</u>	S (S)												
Ⅲ 医療														
2 質の高い医療の提供														
・手術件数： 【附属病院】7,500 件/年 【センター病院】9,400 件/年 ・救急応需率： 【附属病院】90%/年 【センター病院】三次救急 90%/年、二次救急 85%/年 ・【附属病院】遠隔 I C U 事業の推進	○ <u>附属2病院とも、高い手術件数と救急応需率を達成し、特に救急応需率は、過去5年間に於いて最多件数となった。</u> ＜手術件数（R6）＞ <table><tr><td></td><td>実 績</td></tr><tr><td>附属病院</td><td>7,642 件</td></tr><tr><td>センター病院</td><td>9,761 件</td></tr></table> ＜救急応需率（R6）＞ <table><tr><td></td><td>実 績</td></tr><tr><td>附属病院</td><td>92.9%</td></tr><tr><td>センター病院</td><td>三次救急 97.5%、二次救急 93.6%</td></tr></table> ○ <u>医師少数地域の医療機関支援として、遠隔 I C U による国際医療福祉大学病院（那須塩原市）との連携を実現したことを高く評価する。</u>		実 績	附属病院	7,642 件	センター病院	9,761 件		実 績	附属病院	92.9%	センター病院	三次救急 97.5%、二次救急 93.6%	A (A)
	実 績													
附属病院	7,642 件													
センター病院	9,761 件													
	実 績													
附属病院	92.9%													
センター病院	三次救急 97.5%、二次救急 93.6%													

3 政策的医療への貢献、地域医療の推進						
<div>・救急応需率 《再掲》 【附属病院】90%/年 【センター病院】三次救急 90%/年、二次救急 85%/年</div> <div>・不妊治療件数 【センター病院】男性 205 件/年、女性 195 件/年</div> <div>・訪問や研修等を通じた病病連携の強化による医療機能分化の推進</div>	<div>○附属2病院ともに救急医療に積極的に取り組み、高い救急応需率を実現していること、<u>センター病院においては多くの不妊治療に取り組んでいること【男性：目標 205件に対して 209件、女性：目標 195件に対して 267件】を高く評価する。</u></div> <div>○病病連携の強化による医療機能分化の推進が図られ、地域医療機関との連携を順調に進めている点を評価する。</div>	A (A)				
IV 法人経営						
2 不断の経営改革及び持続可能な経営のための自己収入確保						
<div>・経営改革に資する取組の推進</div> <div>・寄附獲得額：500 百万円/5～6 年度累計（進捗率 25%）</div>	<div>●<u>令和6年度決算では、法人全体で経常収支が15.2億円の赤字、大学部門では前年度比7億円の収支悪化が見られ、外部資金も前年度比3.2億円減、予算比1.0億円未達となっている。</u></div> <div>法人全体では、改革推進会議の開催やA Iを活用した経営改善、両病院における戦略的な<u>経営改善の取組が進められているものの</u>、経常利益はマイナスとなり、資金も減少している。</div> <div>大学部門も含めた多角的な課題分析と取組の強化が求められるとともに、<u>外部資金の獲得、収入の拡大、業務効率化、経費削減など、更なる経営努力が必要である。</u></div> <div>< 寄附獲得額 ></div> <table><tr><td>目標（5～6 年度累計）</td><td>実 績</td></tr><tr><td>500 百万円</td><td>285 百万円（進捗率 14%）</td></tr></table>	目標（5～6 年度累計）	実 績	500 百万円	285 百万円（進捗率 14%）	C (C)
目標（5～6 年度累計）	実 績					
500 百万円	285 百万円（進捗率 14%）					
VI 地域貢献（横断的項目）						
<div>・リカレント教育プログラム実施の推進、社会ニーズに対応した質の高いエクステンション講座の実施</div> <div>・産学官共創オープンイノベーション研究施設の整備</div> <div>・訪問や研修等を通じた病病連携の強化による医療機能分化の推進</div> <div>・積極的な逆紹介を行い、近隣医療機関との適切な役割分担を図ることで、地域における医療機能の連携と最適化を推進</div> <div>・社会の変化に対応する知識や技能、幅広い教養と高い専門的能力、グローバルな視点を養う教育プログラムの提供</div>	<div>○法人として高い地域貢献意識を持ち、推進体制の整備にも努めながら、<u>社会人教育の拡充、産官学連携やオープンイノベーションの強化、地域医療ニーズへの対応や地域医療体制の充実、地域課題への対応の取組を進めていると評価できる。</u></div> <div>○社会課題の解決を担う優秀な人材を輩出している。</div>	A (一)				